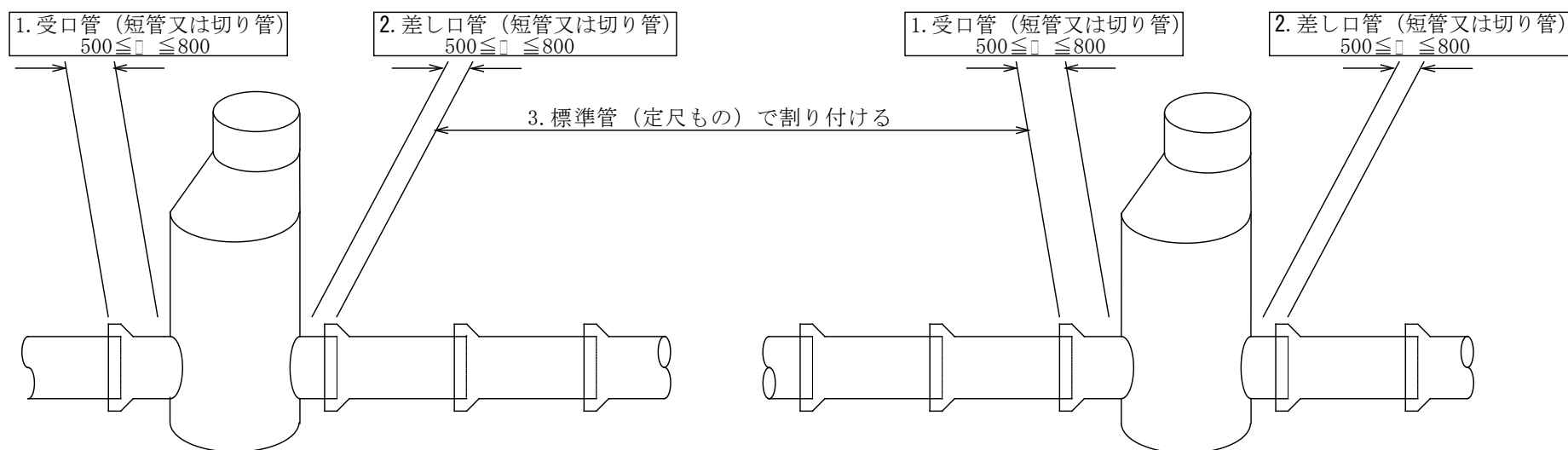


マンホールと本管接続部の耐震施工仕様書

目的：マンホールと本管継ぎ手部が大地震でこわれやすいのでこれを防止します。

対象：開削工事によるマンホールと下水道本管（ヒューム管）とします。

効果：マンホール前後の1本目の本管を短くすることで、たわみ性のある柔構造にできます。



注) 3. の区間で延長調整のため切り管を使用した場合は、ゴム輪がなくなりますので下図に示すように止水性に配慮してください。

マンホールと本管接続部（受口、差し口）の短管又は切り管の有効長

管径 (mm)	短管又は切り管の有効長 (mm)
φ 200～350	L = 500 (短) (切)
φ 400～450	L = 600 (短) (切)
φ 500～700	L = 600 (切)
φ 800～1350	L = 800 (切)

